

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年12月7日（月）17時55分～18時15分（20分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）私から冒頭に感染状況などを申し上げます。

引き続き、高い水準での陽性者の数の報告がなされているところでもあります。昨日は全国で1,999名ということでもあります。本日も東京は299名、北海道は124名、兵庫県107名など報告がなされているところでもあります。入院者数、重症者数の数も増加が続いているところでもあります。幾つかの地域で病床の占有率がかなり高い水準になってきていると。この医療提供体制及び公衆衛生の体制の負荷が増大してきている、継続してきているということ、医療体制がかなり厳しくなっている状況であります。こうした中で強い危機感を持って、都道府県と緊密に連携しながら、とにかく病床の確保、人員の確保、これに全力を挙げているところでもあります。

大阪府では重症病床の逼迫に対応するため、15日の大阪コロナ重症センターの開設準備を進めているところではありますが、御案内のとおり看護師の確保が課題となっているということでもありますし、また、北海道においては、大規模な院内感染が発生しました旭川市において、看護師が不足していると聞いております。

現在、大阪府に対しては国として、府から厚労省への要請を受けて、保健所支援のために医師2名、保健師16名、薬剤師2名、衛生技師1名を本日より派遣し、順次活動を開始するというところでもあります。また、自治体間の調整として、府から要請のあった看護師40名の派遣について、関西広域連合、全国知事会において現在調整中と聞いております。

また、北海道に対しては、厚生労働省から専門職や職員30名を派遣しているところでもあります。自治体間の調整として、全国知事会の中の13県から看護師20名の北海道への派遣を12月1日から順次開始しているところでもあります。

さらに自衛隊の派遣について、現在、大阪府、北海道において要請を検討しているということでもあります。防衛省、自衛隊との間において、事務的な調整がなされていると聞いております。知事からの要請があれば、速やかに対応できるよう取り組

んでいるところでもあります。

感染状況についてはここにありますとおりですが、今申し上げたように北海道で50%を超え、全体ですので、旭川市が特に逼迫してきているということで、重症者ベッドは全体としては13%ということでありましたが、大阪の方がむしろ重症者ベッドが61%。実際の体感としてはもう少し高い、8割とかということになってきていると承知しております。この大阪の重症者への対応に全力を挙げなければいけないということでもあります。

陽性率は、北海道はちょっと落ち着きましたが、愛知県で10%を超え、兵庫も9.9%ということで、依然高い水準のところがありますので、とにかく新規陽性者、報告者の数もまだ25人を超えておりますので、ここを下げていかないと毎日高い水準で感染者が出ますと、入院される方も増えますし、遅れて重症者の数が増えてくるということで、この点をしっかり対応しなければいけないと思っております。

休みなどもあってちょっと検査数が落ちておりますが、病床は東京も1,800まで来ています。一時期、1,000人前後ということもお話し申し上げたと思っておりますけれども、東京もしっかり対応しなければいけないということでもあります。

愛知も高い水準ですが、前にもお話ししたとおり、名古屋市が逼迫してきていますが、大村知事は愛知医大あるいは藤田医科大の協力も得るということで、対応していきたいということでありました。

東京の陽性率は6.4%ということでもあります。8月のピーク時と重なってきております。

60代以上の方も600人を超えておりますので、やはり重症化するリスクがあるということでもあります。全体のパーセントも19.9%ということで、今回の大きな流行の中では、広い年代に感染者が出ているということでもありますので、特に重症化しやすい、重症化するリスクのある高齢者をしっかりとケアしていかなければいけないということでもあります。

それからマスクの効果を知っていただくために、スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果とか、東京大学の河岡義裕教授の研究成果は、これまでも私はポンチ絵でお示ししてきましたけれども、動画を作成いたしましたので、御覧いただければと思います。

(動画) 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室からのお知らせです。

話すときはマスクを着用する。この徹底がコロナウイルスの拡散防止に効果的であることが、研究の結果、明らかになっています。

スーパーコンピュータ「富岳」によるマスクの効果検証では、不織布マスクなら大きな飛沫の飛散はほぼ 100%、小さな飛沫でもおよそ 70% 防ぐことができることが示されました。

東京大学の研究でもマスクの効果は明らかです。50 センチメートルの距離で向き合って会話をするとき、聞き手が吸い込む飛沫の量を、マスクのありなしで比較しました。

向かって左側が話し手、右側が聞き手です。聞き手だけがマスクをした場合でも、布マスクなら 17%、サージカルマスクなら 47%、医療者用の N95 マスクなら、79% の吸い込みを防ぐことができます。話し手だけがマスクをしていても、布マスクでも、聞き手は飛沫の吸い込みをおよそ 70% も防いでいます。

話し手、聞き手両方がマスクをした場合です。布マスクでもサージカルマスクでも、飛沫の吸い込みを相乗的に減少させることができます。マスクに加え、人と人の距離を取るなど 3密を回避することによって、さらに飛沫の吸い込みを抑えることができます。

感染拡大を防ぐために、話すときはマスクを着用しましょう。いつでもマスク。御協力をお願いします。

(大臣) ということで、引き続き、特に会食のときなど食べているときはしょうがないですけれども、食べないときはマスクをして会話をしていただくように、是非お願いをしたいと思います。

私からは以上です。

(問) 2点お願いします。

1点目がコロナ関係で。大阪、北海道、東京の「G。T。トラベル」の一時停止や自粛期間の期限が、残り1週間余りとなりました。大臣は「勝負の3週間」と呼びかけて対策を強化されてきて、現状をどう見ていらっしゃいますでしょうか。今

後、再開するかしないかをどのように判断していくのか。重症者はやや遅れて出てくると思うんですけども、どういう指標に注目していくのかなど考え方を教えてください。

2点目、75歳以上の医療費窓口負担を巡る調整状況を教えてください。よろしく申し上げます。

(大臣) まず大事な3週間と申し上げて10日ぐらい経つんですかね。半分近く経ってきていると思います。引き続き、新規陽性者の数は過去最多の水準が続いているわけでありまして、最大限の警戒が必要という状況が続いております。何とかこの感染者の日々の数を減らすべく、都道府県知事と緊密に連携しているところであります。

それぞれの地域で2つの対策。1つは重点的な検査ということで、これは北海道であればすすきの地域を中心として、幅広く関係者に呼びかけて行っている。また、高齢者施設など、高齢者の皆さんの命をお守りするために、感染者が出ていない場合でも、リスクがあると思えば検査を全員にやっていただく。医療機関もそうです。

こういった取組を進めて、検査の数をかなり増やして、北海道だと3倍、4倍。それ以外の地域でも2倍以上に増やしてきているところだと思います。あわせて、「G。T。トラベル」の一時停止などの措置でも対応しているところでありますし、さらには時間短縮の要請がそれぞれの地域でなされています。北海道ではかなり人流、人の流れは減っているようではありますが、他の地域でも減ってきているのを日々確認しているところでもあります。こういった対策を都道府県と連携しながら徹底していくこと。

そして、あわせて今、動画で見ていただいたような、マスクをしていただくこと、手洗い、消毒、そして3密の回避、こういったことを繰り返し、国民の皆さんにお願いをしていくことが大事だと思っています。

特に若い方々になかなかメッセージが届きにくいんですけども、若いからといって、軽症だからといって安心することなく、後遺症が残る方も結構おられます。また、家族や職場を通じて高齢者に感染が届いてしまう、こういうことがあるわけありますので、少しでも調子が悪ければ仕事を休む。あるいは遊びに行かない。むしろ検査を受けるということ、是非お願いしたいと思います。

その上で、とにかく今は北海道であったり大阪であったり、幾つかの地域で病床をしっかりと確保し、そのための医療人材、看護師さんあるいは保健師さんなど、関係の人員をしっかりと確保していくことが大事であります。このことを都道府県と連携しながら進めております。医療をしっかりと守っていく。このことを、先ほど総理の下で田村大臣とも確認いたしました。厚生労働省も全力を挙げて都道府県と連携しながら取り組んでいるところであります。

何としても病床を確保し、そしてそれを稼働させるための人員を確保していく。このことに全力を挙げていきたいと思っております。そして同時に、何とか感染者の数が下がっていくように、都道府県と連携して取組を引き続き継続していかねばいけません。

そして、専門家の皆さんには日々、分析をしていただいております。先週もアドバイザリーボードが開かれました。今日も尾身先生をはじめ専門家の皆さんと意見交換をしております。分析を急いでもらっております。そして、対策についても御意見をしっかりと伺いながら、引き続き都道府県と連携して対応していきたいと考えているところです。

それから、全世代型社会保障検討会議についてのお話がありました。75歳以上の窓口負担の件であります。現在、検討会議の次の日程、その後のプロセスはまだ決まっておりません。今日は残念ながら開けないということでもあります。

現在、与党間で精力的に調整が行われていると聞いております。政府与党において何とか取りまとめるべく、最終的な調整を行っている段階であります。協議の状況を見ながら会議を開催し、取りまとめていきたいと考えています。

（問）先ほど大臣の発言にもありましたが、名古屋が非常に逼迫しているということで、今日の河村市長の会見で「病床が9割以上埋まっている」という発言がありました。これについて、国が名古屋についてどう分析をされていて、今後、国として何か対応を取る考えはおありでしょうか。教えてください。

（大臣）河村市長の会見を全て見ているわけではありませんが、名古屋市が、かなり病床が逼迫しているという報告は受けております。この件については大村知事とも、何度か私もやり取りをしていますし、事務的にも県とかなり緊密に連携を取り合っ

ているところ です。

確かに名古屋市だけで見ると逼迫している状況になってきていますが、その周辺も含めて見れば、先ほど申し上げた藤田医科大とか愛知医科大とか、それなりの病床を確保してあるということ、知事の考えとしては、県としては名古屋市の逼迫の状況を含めて状況をしっかりと把握しながら、全体として対応していきたいと聞いております。

引き続き、大村知事とは緊密に連携を取りたいと思っておりますし、また、必要に応じて河村市長ともお話ししたいと思っておりますが、是非、県と市で緊密に連携を取って、対応していただきたいということをお願いしたいと思っております。

(問) 「G。T。トラベル」について、名古屋市とか旭川市、今、病床が逼迫しているところについては、止めるという判断はあり得るのかどうかということと、現在、大臣の中では、ステージⅢに相当する対策が必要な地域というのはどこなのか、お考えを教えてくださいなのですが。

(大臣) まず、「G。T。トラベル」の件も含めて、様々な対策をそれぞれの都道府県で検討され、また、実行もされてきています。引き続き、それぞれの都道府県と緊密に連携をしながら、対応していきたいと考えています。

数字は日々変わりますので、どの地域がステージⅢ、どの地域がステージⅣとは申し上げませんが、しかし毎日お示ししているこのデータを見ていただくと、どの指標がどの都道府県で当たっているか。市のデータは必ずしも全て、こちらも把握しているわけではないのですが、都道府県は把握をしている中で、私も都道府県知事と緊密に情報を共有しながら、また、事務的にも共有しながら対応してきています。

全てを機械的に当てはめて考えるものではありませんけれども、この指標を目安としながら、それぞれの都道府県と連携して、それぞれの感染状況、それと何より病床の状況、これを踏まえて対策を強化し、対応してきているところです。

特に重症者の病床がかなり緊迫した状況になってきている大阪であるとか、それから北海道旭川とか、昨日も鈴木北海道知事、それから吉村知事と話をさせていただいたところでもあります。こうした状況を見ながら、必要な対策をしっかりと講じていきたいと。国としてできることで、全力で応援していきたい

と考えています。

（問）今のと関連なんですけれども。やや自治体の判断でステージⅢと示されているところがなくて、実際にステージⅢ相当で打つべき対策というのがどんどん遅れているんじゃないかと思うんですけれども、それについて大臣はどのようにお考えかということ。

例えば、国がそこで背中を押すという役割もあるというふうにこれまで大臣もお話をされていますが、早く対策を打たないとだんだん遅れて、波も高くなっていったら、結果的に経済にもマイナスの影響があるというふうには思いませんか。いかがでしょうか。

（大臣）これまで答弁をしてきておりましたので、私の発言をしっかりと見ていただくとありがたいと思いますけれども。それぞれの都道府県知事と情報を共有しながら、今申し上げたように一つずつのデータが当てはまる、当てはまらないで、どこがステージⅢか、Ⅳかということよりも、もうそれぞれの知事はものすごく強い危機感を持って対応してきています。私も同じです。日々、連絡を取り合いながら、強い危機感を持って対応してきています。

北海道は早く増加傾向が見られましたので、11月7日から時短要請も行っています。それぞれの状況を見ながら知事と緊密に連携を取って、そして私が背中を押すこともあれば、また、もう少し慎重にということもあるわけですね。特措法自体が必要最小限の措置ということで、基本的人権を尊重するように言われています。この辺りの連携が非常に大事だと思っています。

私の立場で知事が適切に判断できるように調整をし、またサポートしていく。これは予算面での支援であったり、あるいは制度面でのサポートであったり、様々な形で緊密に連携を取って対応してきているところであります。

先ほど申し上げたように、鈴木知事とも吉村知事とも連絡を取り合って対応してきています。それぞれの状況を見ながら、必要があればさらに対策を強化しなければならないわけでありまして、専門家の分析を急いでもらっているところです。

いずれにしても、専門家の皆さんの御意見もしっかり聞きながら、また、それぞれの知事と感染状況あるいは病床の状況、これは一番知事がよく分かっておられますので、知事と緊密に

連携を取って、知事が適切な判断ができるように、私の立場で調整、サポートしていきたいと考えています。